

〔幕朝年中行事歌合上〕七番 右 京都御使

東路のかすみとともにたち初て雲井のはしを渡る春風

判云、京都への御使、伊勢日光の御代參、一時に召出て沙汰せしめ給ふなど、神と君とのかはら  
ぬ御崇敬、實に斯有べき事とこそ誰もいふめれ、只何事ともたどらでかかる事よとのみおも  
ふ輩も有ぬべし、尊き事も常となれば、何とも人のおもはぬぞいとたふとかりけり。○中京  
都御使は前と同じ日、正月七日伊勢日光代參の御事をはりて後、うちへの御使にされし高家  
を召され、年頭の賀儀を奏せらる。

〔柳營年中行事〕正月十三日

一京都御使高家肝煎 右近々當地就發足、登城、御判物之御内書、且准后江之御目錄兩傳奏江御  
判物御目錄奉書覺書、白銀證文并諸司代江之奉書、舊臘官位被仰付面々江口宣之奉書、且御使高  
家江人馬八人御朱印被下之、於羽目之間月番老中出座渡之、但京都御使高家、正月十五日江戸  
發足、

一大納言様より御進獻之御太刀目錄等、於西丸老中渡之、

一禁裏江御進獻之品左之通 禁裏江御太刀、御馬代銀百枚、蠟燭千挺、御目錄折紙、兩傳奏江御  
内書、仙洞江御太刀、御馬代銀五十枚、蠟燭五百挺、御目錄折紙、兩傳奏江御内書、女院御太刀、  
御馬代銀三拾枚、女御江右同斷、右女房江老中より奉書添 勾當内侍江卷物五卷、兩傳奏江  
御太刀、馬代黃金壹枚宛、右之通被進之。○中略

二月十七日、京都御使歸、

右出座、老中披露之御目見、禁裏御所方御使相勤候趣高家言上之、上意有之、老中及御取合退座、

高家肝煎